

北の森林 国有林



北海道森林管理局



Photo: Nobuhiro Horii

春を待つ十勝岳連峰



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林



知床世界自然遺産

ユネスコ・IUCN 知床を再評価

平成17年7月に世界自然遺産に登録された知床。日本政府はその登録の際に、海洋生態系保全のための海域管理計画の策定や、サケ科魚類の遡上を阻害する河川工作物への改良等の取り組みを求められていました。

このたび、これらの取り組みについて評価するため、国連教育科学文化機関（ユネスコ）と国際自然保護連合（IUCN）による合同現地調査が2月19日（火）から22日（金）の日程で行われ、ユネスコ世界遺産センター次長キショール・ラオとIUCN保護地域事業部長デビッド・シェパードの両氏が知床を訪れました。

二月十九日、羅臼町に入った一行は、北海道・斜里町・羅臼町主催の歓迎レセプションで、「知床いぶき樽」の演奏を鑑賞するなど、地元から暖かいもてなしを受けました。二十日から本格的な調査が始まり、海域管理計画の説明と漁業者との意見交換が行われ、翌二十一日には、河川工作物等の取組状況の説明と意見交換及び改良が行われたイワウベツ川の治山ダムなどの現地視察が行われました。また、最終日の二十二日には、斜里町、羅臼町等の地元団体との意見交換が行われ、知床におけるこれまでの様々な取り組みについての熱い議論が交わされました。河川工作物のこれまでの取組状況については、河川工作物ワーキンググループ（WG）座長の中村太士北海道大学大学院教授から、同グループにおいて三年間にわたり、治山ダム等の河川工作物がサケ科魚類に及ぼす影響と改良に伴う防災面等への影響についての科学的な検討を行い、十三基の河川工作物を改良することが適当と評価したこ

と、このうち七基の改良が行われていることなど、求められた課題に対して、積極的に取り組んでいる旨の報告が行われました。調査団は、個別的な課題は残るが、日本側のこれまでの迅速な取り組みを高く評価しており、ポジティブに受け止めているとの好意的なコメントを残して、知床を離れました。なお、この度の調査の正式な評価結果は、今年七月にカナダのケベックで開催される第三十二回世界遺産委員会で報告されることになっていきます。

（保全調整課）



調査団のシェパード氏（左）とラオ氏



ダムの状況調査



WGの取り組み状況説明



治山ダムの改良箇所での説明を受ける両氏

みなさんのご意見を国有林に

国有林モニター会議

開催



現地視察では藻岩山国有林の管理経営についての意見交換を行いました

北海道森林管理局では、国有林の役割や現状について道民の皆様にご理解をいただくとともに、国有林野の管理経営に皆様の声を反映させることを目的として、「国有林モニター会議」を開催しています。



会議での活発な意見交換



雪上車で藻岩山国有林の視察へ



藻岩山山頂にて

北海道森林管理局では今年度、四十八名のみなさんに国有林モニターを依頼、昨秋には北海道国有林の事業現場の視察ツアーを実施するとともに、また、アンケートを通じ多くの貴重な意見をいただけてきました。

二月八日（金）には国有林モニター会議を開催し、全道各地から二十三名のモニターのみなさんにご出席いただきました。当日は、午前中にロープウェイと雪上車を乗り継ぎ、その一部が天然記念物に指定されている藻岩山国有林（札幌市）を視察。午後からは、森林管理局の大会議室で会議を行い、局長をはじめとする局幹部とモニターのみなさんとの間で活発な意見交換が行なわれました。

席上でいただきました貴重なご意見等は、今後の国有林野の管理経営に役立てていきたいと考えています。

今期の国有林モニターは三月末で任期終了となりますが、モニターのみなさんには、引き続き、いろいろな形で森林づくりに携わっていただければ幸いです。

一年間の長きにわたって活動していただき、大変ありがとうございました。

（業務調整課）

優れた施工技術をとたえて

平成19年度

治山・林道工事コンクール

治山・林道工事コンクールは、前年度に発注した工事を対象として構造物の仕上がり状況、施工管理及び工事を通じた自然環境への配慮などを総合的に評価し、優れた工事を表彰するものです。

今年、北海道森林管理局管内において、優秀工事として林野庁長官賞を清見の沢治

山工事（日高北部署管内）ほか八件に、優良工事として北海道森林管理局長賞を三和林道外1路線災害復旧工事（日高南部署管内）ほか二十一件にお贈りしました。

部門別の受賞者等詳細は当森林管理局ホームページに掲載しています。

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

表彰式日程

- 札幌地区（二月十四日）
 - 旭川地区（三月二十四日）
 - 北見地区（二月二十一日）
 - 帯広地区（二月十八日）
 - 函館地区（二月十五日）
- （森林整備第一課・治山課）



局長室で行われた札幌地区の表彰式



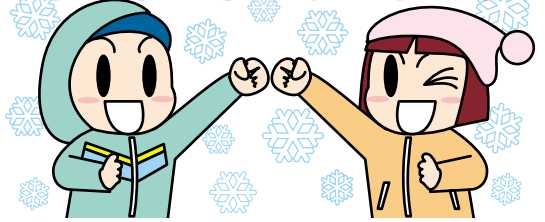
札幌地区の受賞者のみなさん

寒さなんてへっちゃら



朱鞠内小

元気いっぱい 冬の森林教室



わんぱくの森で

森林官「っこ」

【北空知支署】二月二十六日（火）、幌加内町立朱鞠内小学校の元気いっぱいの子どもたちと同小学校遊々の森「わんぱくの森」で、森の仕事体験を行いました。

「今日は、森の中の仕事をみんなに体験してもらいます」との講師の声に、「よし、がんばるぞ!」と早速森の中へ。しかし、雪は思っていたよりずっと深く、みんな腰までずっぽりはまって悪戦苦闘。でも、さすが雪国の子どもたちがうまく乗り越ええました。

森の中では、樹木の太さを輪尺で測ったり、「あっ、トドマツだ!」、「どんぐりの木はナラだよ!」と、元気な声を上げたり。「なんの木かわからないから葉っぱを探そう!」なんて声も。また、森の地図を見て今いる場所を確認したり、木に



木の太さを測って、ナンバーテープつける未来の森林官?



じゃ~ん、これがガンタッカーとナンバーテープだよ



森の地図って色々なことが載ってるね。おじさ~ん、ここはどの辺?

目印のナンバーテープをガンタッカーで打ち付けたり、のこぎりでツルを切ったりと、みんな大活躍でした。

帰路でも子どもたちは疲れも見せず、雪をかきわけ全速力! なかには雪の中へ思いっきりダイブする姿も。

元気いっぱいの楽しい森林教室になりました。

(渡部 業務課長)

こんなにきれいなのできたよ トムラウシ少年 グリーンクラブ



「紙すき」から学ぶ

木と紙の関係

【東大雪支署】一月二十九日（火）、新得町立富村牛（とむらうし）小中学校の十七名のみなさんと、紙すき体験教室を開催しました。

これは、同校の「トムラウシ少年グリーンクラブ」活動の一環で、木と紙の関係について考え、木の大切さやリサイクルについて学ぼうというもので、当日は紙に関するビンゴゲームや牛乳パックを利用した紙すき実習を行いました。



さあ、うまくできるかな?

紙すきでは、パルプ液を木枠に流し込み、色紙や花びらなどを利用した八ガキを作りました。

子どもたちは、パルプ液の量や色紙の配置など工夫しながらオリジナリティーあふれる作品づくりを楽しみ、出来上がったものを並べ、「この作品かわいい!」などと、にぎやかに品評しあい、「ぜひ、またやってみたい」と話していました。

(赤坂 森林ふれあい係長)

7.回の道具で 学校林調べたよ



北村小5年生

林で森林教室を開催しました。

この地区には山がなく、広大な田畑に囲まれた中にある学校林はまるでオアシスのように見えます。また、林内は樹種も豊富で、学習の場には最適です。

今回は、子どもたちと一緒に森林管理署の林業器具、輪尺、測高器を持ち込み、スノーシュー（西洋かんじき）を履いて、冬の森林調査体験を行いました。

みなさん、初めて手にする道具に興味津々で、これらの使い方を習いながら測樹に取り組み、「ヤチダモ（太さ）四〇センチ、（高さ）十八メートル！」

などと大きな声が林内に響き渡っていました。

その後、教室に戻り、調査データを元に「立木幹材積表」を使って木々の材積を算出し、調査前にみんなで予想していたものと比較し、発表しました。

また、子どもたちからは「スノーシューで雪の上を歩くのはとっても楽しかった」、「樹木のはかり方がおもしろかった」などの感想も聞くことができました。

当署では、引き続き同小学校と連携した樹名板設置、学校林図鑑の作製、森林環境教育プログラムの充実などを考えており、さらに楽しい森林教室を展開していけたらと思っています。

（金澤 流域管理調整官）



これはどうやって使うの？



ワイゼ式測高器で木の高さ測ってます



調査結果とりまとめ中



まとまったら発表しよう

「ヤチダモ40！」

大きな声で森林調査

【空知署】二月八日（金）、岩見沢市立北村小学校の五年生のみなさんと同小学校の学校

工夫して作った弓

百発百中??

【網走西部署】一月三十一日（木）、遠軽町立遠軽南小学校二年生のみなさんとヤナギとヨモギを使った「弓矢づくり」を行いました。

これは、国語の授業で「おもちゃ大会をひらこう」という単元があり、身近な材料を使ったおもちゃ作りを体験する中から、その作り方や遊び方を順序よく話す力をつけることを目的とした学習の一環として行われたもので、森林管理署職員とまちの森林博士八名が先生役を務めました。

ヤナギで弓矢作ったよ



遠軽南小2年生

子どもたちは博士たちと一緒に苦労しながらヤナギの木を曲げ、凧糸を張って弓を作り、矢に使うヨモギは太い方を頭にして糸にあたる所は割れないようにセロテープを巻き補強しました。

完成後は、早速グラウンドに飛び出している。最初はなかなかうまく矢を放てませんでした。最初はなかなかうまく矢を放てませんでした。最初はなかなかうまく矢を放てませんでした。

子どもたちが今回の体験からどんな風に話す力をつけたのか楽しみです。

（辻 森林ふれあい係長）



まちの森林博士の話に興味津々

長 感
署 雑

日高北部森林管理署長

安 永 正 治



日高小学校環境調査隊

我が署は、沙流川の上流、日高山脈北部の山あいの日高町日高地区（旧日高町）に位置し、町の周囲には「樹海」と称される森林が広がっています。

当地に赴任して間もなく一年が経ちますが、周りの風景や森林、草花、野鳥などの自然の姿が刻々と変化していく様は、なかなかエキサイティングでもあり、あっという間の一年でした。

国有林は、日高地区から平

取町にかけて、日高山脈の稜線から市街のほど近くまで広がっており、古くから林業・林産業、鉱工業などを通じ地域の人々の身近な存在となっていました。



最近では、日高山脈登山、森林レクリエーションなどに多くの人々が訪れています。特に日高地区の国有林内には、国立日高青少年自然の家や日高国際スキー場などの施設、町内には博物館日高山脈館などがあり、これらの利用者や地元小中学校など青少年の自然学習の場としても国有林が利用されています。

先日、地元の日高小学校と



沖縄と日高の交流・伊是名島小学生スキー学習

沖縄県伊是名島にある伊是名小学校との間で交流会が行われ、日高国際スキー場では、スキー体験学習が行われました。私も地域住民としてお手伝いさせていただき、南の島の子どもたちとふれ合う機会に恵まれました。

子どもたちは、初めて見る雪に歓声をあげながら、なか

アイスキャンドルで彩る冬の夜

【空知署】冬の夜にほのかな彩りを添えるアイスキャンドル。

厳しい寒さの中、道行くみなさんの心をホッと温め、喜んでもらえたら...

そんな思いから、当署では寒の入りからアイスキャンドルを製作し、夕暮れから灯しています。

庁舎の前で氷の中に揺らぐ小さな炎は、ウッディーなエントランスの魅力を増すとともに、足を止め寒さにすくめた肩をホッと下ろす人たちの影も映し出しています。

これからも、地域のみなさんに喜んでもらえる催しを考えていきたいと思っています。

(杉尾 森林ふれあい係長)



なか思い通りにいかないスキーに悪戦苦闘している様子でした。

それでも見る見るうちにスキーにも慣れ、まっ白に輝く夕張岳、落葉した冬枯れの森の様子、雪の上に続く野ウサギやキタキツネの足跡などを興味深げに観察する余裕もでき、スキーを楽しんでいたようでした。

この北の森での体験は、南

の島の子どもたちの記憶にいつまでも残ることと思います。

これからも、日高の国有林が広く人々から親しまれ続けるよう、温暖化防止、生物多様性の保全、森林の美しさなどを伝えつつ、森林の整備や山地災害の防止などに取り組んでいきたいと考えています。

森林技術センター Report

士別市にある北海道森林管理局「森林技術センター」は、豊かな北の森林資源を未来へと引き継ぐために、国有林をフィールドとして森林・林業についての技術開発や普及活動を行っています。



森林の働きを知っていますか？ ~ 森林技術講座開催 ~



2月5日(火)に森林技術センターにおいて、森林技術講座「森林の働きを知っていますか？」を開催しました。

これは、地球温暖化防止をはじめとする森林の公益的機能や当センターの業務を紹介し、森林の大切さへの理解を深めてもらうことを目的に行ったもので、林業サークルや一般市民のみなさん18名が参加しました。

当日は、松本所長が講師を務め、森林が二酸化炭素を吸収して酸素を供給していること、木材の供給や水を蓄える天然のダムとしての機能を果たしていることなどを、プロジェク

ターでアニメーションを活用し、わかりやすく解説しました。

さらに、森林は人間が生きていく上で重要な役割を果たしているが、世界的な森林破壊で大気汚染や山崩れなどが発生し、地球上の動植物に大きなダメージを与えていることを伝え、森林を守り育てる重要性を理解してもらいました。

また、「自然に触れてみよう」をテーマに小鳥のペーパークラフトづくりも楽しんでもらい、大変好評でした。(藤岡 副所長)



甚大な台風被害を受けた支笏湖周辺国有林が協定対象地

【石狩署】二月二十二日(金)、北海道大学農学部森林科学科と石狩森林管理署が、「千歳国有林森林再生等の調査研究に関する協定」を締結しました。

これは、平成十六年の台風18号による甚大な風倒被害を受けた支笏湖周辺国有林の森林再生に向け、自然力による森林再生、観察・調査研究の場の設定、早期復興・森林再生(被害木の処理及び跡地の造林)との考え方に基づき、その推移について調査を行うもので、協定期間は五年間となっています。

同大はこれまでも国有林を視察に訪れており、数回の現地踏査と打合せを重ねこのたびの協定となったもので、今後、プロットを設定し、計画的、継続的な調査研究に取り組むこととなります。

当署では、フィールドの提供に加え、調査研究の成果を国有林野の事業実行にも反映するなど、相互の協力を推進していきたいと考えています。

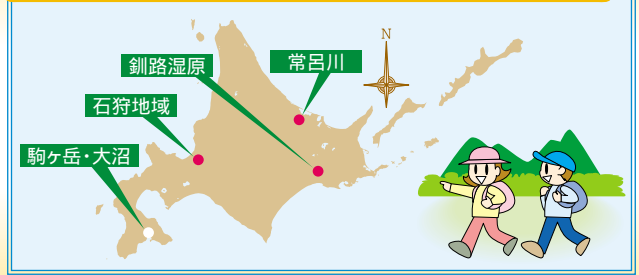
(杉村 流域管理調整官)



協定書を交わす北大森林科学科 森本講師(右)と石狩森林管理署長

森林環境保全ふれあいセンターだより

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。



韓国全南大学 野幌プロジェクト を視察

石狩地域森林環境保全
ふれあいセンター



野幌プロジェクト
についての講義を行いました

森林政策を学んでいる
全南大学のみなさんと

二月十四日(木)、韓国光州広域市の国立全南大学から、森林政策学研究者の安起完(アン・キワン)准教授と学生七名が野幌森林再生プロジェクトの視察に訪れました。

安准教授によると、韓国の森林政策は、単なる木材資源管理から多面的機能全般へ移りつつあり、北海道の森林政策、木育、森林療法等が非常に参考になるとのことです。今回は道庁や道立林産試験場等も訪問しています。

当日は、野幌森林公園入口にある自然ふれあい交流館で野幌の森と自然について、交流館職員と連携して講義を行い、当センターからは特に森林再生活動の経緯や市民参加等の現状を詳しく説明しました。森林内の散策は吹雪のために残念ながら実施できませんでした。一行はプロジェクトの形成から実施、評価に至るまで多くの市民や学識者が関わっていることに強い印象を受けたようでした。

(荻原 所長)

みどりを次世代に オホーツク みどりネットワーク

常呂川森林環境保全
ふれあいセンター

一年間の活動をポスターで発表



二月二十六日(火)、「オホーツクみどりネットワーク」の第二回全体会議が網走総合庁舎で開催され、当センターはポスター展示発表を行いました。

同ネットは、うるおいとやすらぎをもたらす「みどり」を次世代に引き継ぐ活動を促進していくために組織され、オホーツク森の案内会の会、みどり人材の登録者や関係行政機関などで構成されています。

当日は、清里町から「花と緑と交流のまちづくり委員会」、網走支庁から「オホーツク流水トラスト運動」についての活動報告があり、特に、清里町の農民の方々が土地を提供し、コスモスを植栽し、フラワーロードを造る活動が印象的でした。

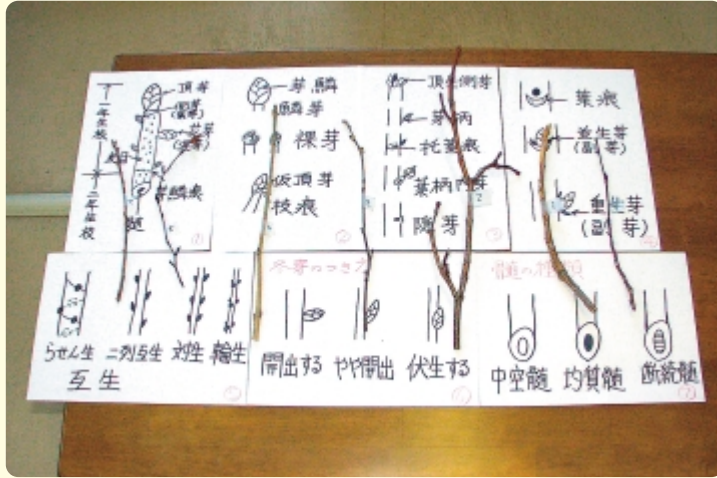
同会議は、オホーツクを代表するみどりのネットワークであり、当センターとしても、今後さらに団体間の連携を強化するとともに、様々な角度から積極的に国有林をPRしていきたいと考えています。

(栄 自然再生指導員)

春からの活動に向けて 検討と学習会

雷別ドングリ倶楽部

釧路湿原森林環境保全
ふれあいセンター



検索表を使って、冬芽から樹種を同定



自然の紋様って芸術的

二月二十三日(土)、雷別ドングリ倶楽部のみなさんと、「どングリ教室」を開催しました。今回は、今年度最後の活動となることから、今期の活動を振り返りながら、春からの活動内容について打合せを行いました。

今年度は、七月から倶楽部の活動を始め、雷別自然再生学習会への二回の参加、雷別産広葉樹の種蒔きや苗木の移植、雷別の草花・広葉樹種子の結実調査などを行ってきました。

参加者からは、「雷別での冬の活動も企画できないか」、「倶楽部の活動を子どもたちに伝えていけるような展開はできないか」などの意見が出され、来年度の活動を企画する中で検討していきたいと思っています。

続いて勉強会に移り、雷別に自生するミズナラやカシワ等の広葉樹とサルナシやミヤマタタビ等のつる性木本の冬芽や基本的な用語などを学習した後、用意しておいた冬芽を検索表に基づいて同定しました。

倶楽部のみなさんは、日頃から森林にはよく出かけていますが、じっくりと冬芽を見るのも、冬芽で樹種を同定するのも初めてで、夢中になって取り組んでいました。

また、「樹皮フロッタージュ」も体験してもらいました。これは、紙を岩や木等の自然物の表面に当て、上から鉛筆・木炭などでこすって絵画的効果を得るものです。

完成後は、みなさん上手にできた紋様を見ながら、「絵はがきに利用してみたい」、「葉っぱのフロッタージュもおもしろそう」などと話して



地中から引き出すと色の違いで凍結深度が一目瞭然です

トドマツ立ち枯れの原因は？

土壤凍結深度を調査中

平成12年頃から発生し始めた標茶町雷別地区のトドマツ壮齡人工林の立枯被害は、冬季の寡雪により土壤凍結が深く進み、樹木の水分通導機能が極度に低下し、樹冠部に強い水ストレスがかかったことが発生原因と推定されています。しかし、土壤凍結の実態については、詳しく調べられていないのが実態です。

そのため、当センターでは、この実態を詳しく把握するため、立枯の顕著な個所、被害が発生していない人工林と広葉樹林に凍結深度計を10箇所埋設し、本年1月から土壤が融解する5月頃までを目途に、凍結深度を測定しています。

この凍結深度計は外管と内管で構成され、内管にはメチレンブルー溶液が封入してあり、外管・内管ともに土中に埋設し、測定時には内管を引き出して計測します。

このメチレンブルー溶液は凍結すると青色から無色に脱色する特性があり、その脱色部分の長さを計測することにより土壤凍結の深度を計測します。

今後、月2回程の頻度で調査を継続する予定です。(渡辺 自然再生指導官)

いました。
終わりに、来年度も雷別の自然再生事業において、倶楽部のみなさんが市民参加活動

の中心となって活躍して頂けるようお願いして、教室を終えました。
(白藤 自然再生指導官)

地域の支援と連携に感謝

後志森林管理署
黒松内森林事務所

首席森林官

松本 誠

黒松内森林事務所は、ブナの分布北限域（黒松内低地帯）の真ん中に位置する黒松内町にあります。当町には国の天然記念物に指定され北海道遺産にもなっている歌オブナ林や山腹を見事なブナ林が覆い多くの登山愛好家が訪れる黒松内岳、さらに鮎釣りの名所

である清流、朱太川などがあ
ります。
また、風力発電による売電
益を活かし、森林保全・環境
維持活動を民・官・学との協
働による「風と森と海のまち
づくり」をしている寿都町に
ある国有林も管轄していま
す。



地域を見守る巨木「精二郎ブナ」

北限のブナ林は、現象観察だけでは説明できない謎がたくさんあります。これらを解明するため国、道、町の天然林、二次林、造林地などタイプの違い、生育状況を観察し、議論を深めるため平成十七年から毎年「北限域ブナ林

ブナの森が
取り持つ活動

今年度は、黒松内町丸山で数百年にわたって地域を見守ってきたブナ巨木「精二郎ブナ」とイタヤ大径木「イタヤの亀ちゃん」の直径・樹高測定、生育状況の観察やその周辺に分布するブナ天然林などの状況などを把握するため、地元住民や研究機関などと合同調査を行いました。
地域に埋もれた「森の情報」を掘り起こすため、寿都町、大学、研究調査機関と連携した森林探索や古からの聞き取り調査を行い、寿都町国有林で（故）館脇操北大教授が発見した北海道最北部に分布する「大和の沢ブナ林」の存



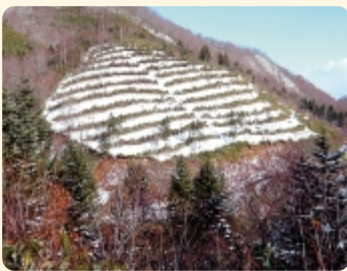
ブナの大木と松本首席森林官

在を約五十年ぶりに確認しました。また、全道一太い「寿都ミズナラ巨木」や「樽岸夫婦オノコ」の発見など明るい話題を地元へ提供することが出来ました。

ブナの子育てのお手伝い

生態系の健全性と生物多様性に関心が高まるなか、黒松内岳周辺の無立木地などで地表処理を行い、ブナの生育環境を整え、その発育を手助けする官民協働の「黒松内岳ブナ再生プロジェクト」が一年立ち上がりました。

また、昨年、社会的ニーズに应运北海道森林管理局は「北限のブナ復元プロジェクト」を立ち上げ、厄介者である笹を処理しブナ林を増やす二つの活動が当該地域で始まり



ブナ林の復元作業地

ました。

みんなの手でブナ林復元を

地球温暖化を危惧する中で、ブナ林のような森林資源を守り、次世代の子どもたちへ豊かな森林資源を引き継ぐため、北限域ブナ林に住む我々が取り組むこの活動は大変意義深いものがあると思います。

また、地域の方々、企業、周辺の各自治体や隣接する道有林、そして実験舞台となる国有林関係者、ならびに森林生態などの研究解明に取り組み大学、研究機関などが連携、協力をしてブナ林についての研究や保全・育成の取り組みが更に加速し、地球温暖化防止に僅かでも貢献できればと願っています。



子どもたちによるブナ林再生活動
こども版マイ・ブナ林づくり



トレッキングに飛びだそう！



かんじきでLet's Go!



かんじきを履いたら出発です

うと毎年開催されているもので、
 当日は、二十六名のみならず、
 ながら、この森を管理する乙部

白銀の森の中 豊かな郷土体感
 【檜山署】二月十七日（日）、「森の巨人たち百選」に選定されている「縁桂」がある乙部町富岡国有林で「縁桂かんじき散策と雪中「しらゆきぜんざい」を堪能する会」が乙部町公民館などの主催で開催されました。



雪化粧した縁桂の前で

これは、冬の奥山を歩き、自然豊かな郷土の四季の移り変わりを感じてもらうと、
 下山後は地元で生産されている白花豆やナガイモを使った「しらゆきぜんざい」が振る舞われ、みなさん大喜びでした。
 （畠中 乙部首席森林官）

森林事務所首席森林官の案内で、かんじきを履き、銀世界の中へ。
 膝まである雪を踏み分け、1km先の「縁桂」を目指し、木々の冬芽などを観察しながら四十分行で到着した皆さんは、雪化粧した冬の縁桂の前に「縁桂に白い花が咲いているようだ」と歓声を上げていました。また、この時期にか現れない氷結した「水なしの滝」へも足を伸ばし、高さ約二十メートルの自然の芸術に目を奪われていました。



絶景が広がる裏摩周展望台

最高のトレッキング日和 根釧台地の自然堪能
 【根釧東部署】二月二日（土）、森林公開講座、根釧台地の自然を体験しよう・水源林「裏摩周スキーツアー」を開催しました。
 これは、摩周湖東側の裏摩周展望台まで自然観察を楽しむながらトレッキングしようというものです。
 当日は、朝から快晴、最高のトレッキング日和の中、二



十八名の参加者のみなさんと往復5kmのコースを歩き、道中は、樹木の説明や、野鳥のさえずりを楽しみながら雪原を進み裏摩周展望台到着。カムイシユ島や摩周岳・西別岳などの絵画のような景色を望むことができ、みなさんに喜んでもらうことができ、最高のツアーとなりました。

根釧台地には、まだまだ魅力ある自然景観が広がっており、これらを活かし、より多くの方々に国産林への理解を深めてもらうよう、今後もこのようなイベントを企画していきます。と思っています。
 （山田 森林ふれあい係長）

レクリエーションの森 紹介 サホロリゾートスキー場



包む極上なパウダー
スノーの滑り心地の
良さが魅力のスキ
ー場です。

山麓から山頂まで
を約七分で結ぶゴン
ドラ(二二四〇^{メートル})
のほか、リフト七基
が運行されていて、
佐幌岳の尾根沿いの
三本のロングコース
を中心に、標高差六
一〇^{メートル}、最大斜度三
九度の中に全十七の
多彩なコースがあり
ます。

中でも最長滑走距
離のノース・アベニ
ューコース(全長三
〇〇〇^{メートル})は十勝平
野を眺めながら滑る
ことができる人気の
コースです。

この他、圧雪していない上
級者向けのモーグルコースや
初心者・ファミリー向けの林
間コースもあり、どのコース

【東大雪支署】サホロリゾ
ー
トスキー場は、十勝地方北西
部の新得町に所在し、十勝平
野と東大雪・日高山系を一望
する雄大な景色と、山全体を



も爽快なクルージングを楽し
めます。

また、今シーズンは全長一
二〇〇^{メートル}、最大斜度二八度の
コースが新設され、滑る楽し
さがさらに広がっています。

また、夏には、佐幌岳(一
〇五九^{メートル})の登山コースの一
つにもなっています。

冬の十勝地方は晴天率が非
常に高いので、素晴らしいパ
ノラマを眺めながら、心地よ
くスキーやスノーボードを楽
しんでみませんか。

スキー場の今シーズンの営
業は四月六日まで

ACCESS

アクセス

自家用車

札幌から 184km 約3時間20分
旭川から 123km 約2時間15分
帯広から 54km 約1時間

交通機関

南千歳駅からJR石勝線で新得駅
下車。
(特急列車で約1時間30分)
新得駅前から無料送迎バス
又はタクシーで約15分



【石狩署】二月十四日(木)、
札幌市内中央区の国有林にク
マタカが飛来し、その威厳あ
る姿を札幌森林事務所伊藤
森林官がカメラに納めまし
た。

当署においては猛禽類等に
ついての職場内研修を実施し
たばかりであり、とてもタイ
ムリーな話題となりました。
(杉村 流域管理調整官)

あっ! **クマタカ**だ!
札幌市
中央区に
飛来

EVENT INFORMATION

行事・
イベント情報

三月十一日(火)
レクリエーションの森リフ
レッシュ検討委員会
局 研修室

三月十四日(金)
留萌北部署庁舎落成式
天塩町

三月十八日(火)
地域管理経営計画等に関す
る懇談会 局 大会議室

四月八日(火)
平成二十年度新規採用者入
庁式 局 大会議室

広報「北の森林 国有林」
発行 北海道森林管理局
編集 保全調整課
☎〇六四 八五三七
札幌市中央区宮の森
三条七丁目七〇

IP電話

〇五〇三一六〇六二七四

電話

〇一一 六二二 五三三一

FAX

〇一一 六二二 五三三五